

別表(一)

第一、大経営のなかの民青	
資料 No.	「民 青 の 告 白」
A-1	題 名・班 名・氏 名 “拡大運動”の強制に絶望 東京・S経営班第一班長 小 泉 裕 三
13～19	頁
青年運動	分類
No.49 1967年 9月号	号発 数行
◎初代班長 分班誕生！だが道はけわしい 小 泉 裕 三	題 名・班 名・氏 名
39～43	頁

盗用された雑誌または新聞掲載の原著作物

第三、経営侵入の拠点・居住班	B-4	B-3	B-2	B-1	第二、中小企業のなかの民青	A-10	A-9
	ミシン組立会社を蹴首されて 埼玉・与野合同班 松本吉雄	“食べる会”で商店員を組織 東京・渋谷「雑草」班 小野道行	材木問屋の中で卓球部をつくる 大阪・木津川A班 松田澄子	神戸“中央市場”内での活動 兵庫・中央市場班 坂本重雄		職場で全く孤立して 東京・N自動車班 田中行男	職場の病人と民青同盟員 東京・羽田空港AGS班 山崎孝
	88～91	83～86	79～81	75～77		72～74	67～70
	民主青 年新聞	民主青 年新聞	民主青 年新聞	民主青 年新聞		民主青年新聞	民主青 年新聞
	第537号 1965年 11月12日付	第522号 1965年 7月30日付	第527号 1965年 9月3日付	第527号 1965年 9月3日付		第621号 1967年 6月21日付	第514号 1965年 6月4日付
	団結の尊さを知る 中小企業の労組作りで首切り 埼玉・松本吉雄くん(17)	頼りにされる民青 渋谷・雑草班の活動 “首切り”撤回させて前進	木材屋にできた卓球部 職場をかえ、夏服ださせる 大阪・木津川	大胆に加盟よびかけ 班全体にわく確信 兵庫・中央市場班		不屈に闘う労働者 闘魂不屈を合言葉に 学習で身につけたド根性 全金プリンス 田口くんの日記から	青春を・いのちを返せ！ AGS従業員／東京・大田区 山崎孝(二三歳)
	7	4	6	4		4	3

A-8	A-7	A-6	A-5	A-4	A-3	A-2
“民青優等生”の作文 東京目黒・M工場 山口道班 子	両親に懇願されて涙にくれる 大阪・M電工班 橋本邦久	北海道に配転されて 元S電機・滋賀工場班 谷健夫	すべては日共候補支援のため 福岡・H炭鉱班 宮前幸雄	スポーツを通じ職場で工作 東京・Y電機総班 篠崎孝	民青拡大の“七つの道具”とは 東京・O電機工場班 荒木准	“拠点経営”の班長になったが 神奈川・T電気総班 久留俊二
61～65	56～59	52～55	47～51	37～39	31～34	23～29
民主青年新聞	青年運動	青年運動	民主青年新聞	民主青年新聞	民主青年新聞	青年運動
第519号 1965年 7月9日付	No.49 1967年 9月号	No.49 1967年 9月号	号外 1965年 7月17日付	第532号 1965年 10月3日付	第608号 1967年 3月22日付	No.46 1967年 6月号
拡大こそが職場の団結さずく 要求とりあげ信頼される班に 東京目黒・M班	許せない不当解雇 ―松下電工の民青攻撃とたたかう― 橋本邦久	おれは民青同盟員だ ―ねばり強い闘いで復職かちとる― 北海道・空知地区 谷健夫	高まる青年の自覚 団結の中心に民青が 福岡・平尾班	職場に広がるスポーツ ソフト対抗もさかんに 東京横河電機	全国活動者会議での発言から若い力が 労組を変える 労組民主化で活動も有利に 学習・スポーツなど多彩な活動 荒木代議員	わたしは班長 職場の中へ！と叫びたい 久留俊二
4	116～121	122～126	2	6	4	111～115

D-1	第四、内部でどんな教育が行なわれているか	C-6	C-5	C-4	C-3	C-2	C-1
『学習の友』を利用して 東京・S電機工場班 木村正造		青年団を民青拡大のブールに利用 A県・I居住班 直野文三	少女の身で日共候補の応援活動 長野・B居住班 今村かずえ	極貧のなかに育つて 栃木県・B町班 柴田進	卓球サークルで青年にくだむ 東京・大久保居住南班 松丸正	海水浴や梨がり町内の青年を 東京・居住班 島田公平	商店員をねらいスケート大会 福岡・T居住班 石井正治
128~129		119~121	116~117	112~115	106~111	101~104	93~98
民新青 民新青		民新青 民新青	民新青 民新青	民主青年新聞	民新青 民新青	民新青 民新青	民新青 民新青
第621号 1967年 6月21日付		第625号 1967年 7月19日付	号外 1965年 7月17日付	第549号 1966年 2月4日付	第627号 1967年 8月2日付	第608号 1967年 3月22日付	第616号 1967年 5月17日付
私たちの学習会 「学習の友」で月二回		青年団中心に多彩な活動 すでに同盟員の三倍の読者 I居住班	ぼく達は一七歳の同盟員 はじめての選挙・選対は楽しい 長野・今村かずえ	わたしはなぜ民青に入つたか 同盟は偉大だ！ 真に生きる道！ 全国活動者を教えてくれた 栃木県・北地区 柴田進君の発言から	拡大で地域かえる自信 卓球大会予想外の集りにびっくり 東京・大久保居住南班 松丸正通信員	新しい仲間がでるのわらうの 要求取り上げで日常活動 どさんどん意見がでる 東京・F居住班	要求をガッチリつかんで 店員さんを組織した経験から 民青新聞福岡支局 石井正治
4		4	2	1	6	4	4

D-7	D-6	D-5	D-4	D-3	D-2
民青の対トロツキスト 六問六答	民青県委員会での幹部教育 民青神奈川県委員 木原 徹	「共産主義読本」の学習を広げよ 日本民主青年同盟中央委員 西村 功	「社会学入門」で討論する 東京千代田・A経営班 三好良夫	「民青新聞」をテキストにして 北海道・岩見沢A班 後藤和秋	サークル「タンポポ学習会」 宮城・C経営班 長谷川 年子
153～166	142～152	138～141	135～137	132～134	130～131
民 主 青 年 新 聞	青年運動	民 主 青 年 新 聞	民 主 青 年 新 聞	民 主 青 年 新 聞	民 主 青 年 新 聞
第638号 1967年 10月18日付	No.49 1967年 9月号	第608号 1967年 3月22日付	第530号 1965年 9月24日付	第528号 1965年 9月10日付	第524号 1965年 8月13日付
羽田での警官隊と トロツキスト「衝突」に関する 六問六答	神奈川県同盟の 教育学習活動 木原 徹	「共産主義読本」の学習を 大々的に起そう 西村功 (同盟中央委員会教育部員)	私たちの学習サークル 主に情勢について学習 サークルで九・一二集会にも参加 東京「社会学入門」学習会	「社会のしくみ」で学習会 二十回以上も続く 岩見沢・青年学習会	わたしたちの学習会 「タンポポ学習会」 「学習の友」で仲間づくりを進める (宮城)
	89～94	5	5	5	5

別表〇一

題名	盗用無断転載の原文(傍線の部分を削除している)		「民青の告白」(傍線の部分を加筆している)
題名	おれは民青同盟員だ ——ねばり強い闘いで復讐かちとる	題名	北海道に配転されて

P 123 中段 6行～17行	P 123 上段23行～ 中段 6行	P 123 上段 13行16行	P 122 下 17行	P 122 下段 1行～14行	班 名 氏 名
やめようと毎日考えるようになりました。 そして毎日、新聞の求人欄をみてはどこかいところはないかと、 (中略七行)	やめよう――、 ですから今まで楽しかった会社が急にいやになりやめよう、 やめよう――、	模範的な社員になろうと考えていました。 汽車の中で学習 コンベアーについて、――、	三洋電機に入社が決定したとき。母が――、	模範的社員めざして 昭和三十六年四月。わたし――	北海道・空知地区 谷 健 夫
P 53 4行～5行	P 53 3行～4行	P 52 12～13行	P 52 2行	P 52 1行	班 名 氏 名
やめようと毎日考えるようになりました。 滋賀の石山駅から大阪までは――、	やめよう――、 めよう、やめよう――、	模範的な社員になろうと考えていました。 コンベアーについて、――、	S 電機に入社が決定したとき母が――、	昭和三十六年四月。わたし――	元 S 電機・滋賀工場班 谷 健 夫

P123 下段17行～ P124 上段4行	P123下 段16行 ～18行	P123 下段 8行～13行	P123 中段 18行～下段4行	
毎日やればいいのにな、なんて考えるぐらいでした。 民青に入ってから――、	「よし、自分も民青に入ろう、入ってみんなとたたかおう」と決意しました。 ――と決意しました。民青に入つたわたしは、あれほどこいやだと思つていた会社だ (中略八行)	人の波と旗の波――、 だなど確信がわいてきました。 ししました。こんな多くの人が平和のためにたたかっているんだ 十月二十一日滋賀工場から十数名の人が集会に参加しました。わたしも参加して集まつた人がすごく多いのにびっくり そんなときの組合の揭示板に――、 など急に目の前がバツと明るくなつたような気がしました。 みんなですしよにどうぞ	わたしはその行き帰りの汽車のなかで「労働者の社会科学」の入門講座を読みました。 そしたら今まで悩んでいたことや、疑問に思っていたことが一つひとつわかつてきました。 (中略五行)	滋賀の石山駅から大阪までは――、 手に職をつけて自分の趣味にあつた仕事を将来できたらしようと思つたからです。
P5 311行～13行	P53 11行 ～12行	P53 9行～10行	P53 5行～7行	
は――、 ――と決意しました。民青に入ってから	「よし、自分も民青に入ろう」と決意しました。	人の波と旗の波――、 が集会に参加しました。 十月二十一日、滋賀工場から十数名の人が	わたしはその行き帰りの汽車のなかで「労働者の社会科学」の入門講座を読みました。そんなとき組合の揭示板に――、	

P 124下 段 2行 ～ 3行	P 124 中段 15行～17行	P 124 中段 9行～14行	P 124 中段 4行～ 9行	P 124上 段20行 ～22行	P 124上 段16行 ～17行	P 124 上段 8行～12行
出発するとき泣いた母のことやいつしよにたたかつた仲間から遠く離れ――、	「業務命令」で強制的にできませんでした。 泣きながら頑張る わたしも最後まで――、	尊重するようにすべきであることを訴えていくことをきめました。結果は一定部分の配転をくいとめ、本人の意志をくみいれさせました。 しかしあとの部分では会社は一人ひとりをよびだして配転を承認させました。	わたしたちの班はすぐに討議し、こんどの配転のねらいは（中略三行） そしてみんなに、この配転のねらいと配転は本人の意志を尊重するように――、	「――この課では君しか適任はいないのや」課長は赤くなつたり青くなつたりしながらいろいろと話してくる。	課長は緊張で顔をビクビクけいれんさせながら「配転してくれ」といつてきました。	いままで一度も顔をだしたことのない組合事務所によく行くようになりました。 配転に抵抗したが そういうことで――、
P 5413行	P 54 8行～ 9行	P 54 5行～ 7行	P 54 5行	P 54 1行 ～ 2行	P 53 17行 ～18行	P 53 15行～16行
出発するとき泣いた母や仲間から遠く離れ――、	「業務命令」で強制的にできませんでした。 わたしも最後まで――、	尊重するようにすべきであることを訴えていくことをきめました。 しかし会社は一人ひとりをよびだして配転を承認させました。	わたしたちの班はすぐに討議し、配転は本人の意志を尊重するように――、	「――この課では君しか適任はいないのや」課長はいろいろと話してくる。	課長は「配転してくれ」といつてきました。	いままで一度も顔をだしたことのない組合事務所によく行くようになりました。 そういうことで――、

下段の最後まで	P 125 上段 7 行～中段23行	P 124下段23行 ～ P 125上段 2 行	P 124 下段 4 行～18行
泣きながら仲間に手紙を書いたこともありました。 思想的にまだまだ未熟だったわたしに (中略十行) そうすることで苦しさをのりきり、頑張りとおせたのです。 岩見沢で民青の地区と――、	任務におしつぶされそうな気持で夢中でやってきました。そのなかで少しずつ活動に対する確信と同盟員としての自覚もつよまってきました。また職場でも――、 職場の中でわたしの影響がつよまるのを恐れた会社はわたしと職場の青年をきりはなそうと攻撃をかけてきました。 会社はまたもひれつな攻撃 会社側のやつてきたことは、 (中略三五行) はつきりのべさせることになった。 たつた一人の事務所へ そして四十年七月末、ふたたび――、	泣きながら仲間に手紙を書いたこともありました。 思想的にまだまだ未熟だったわたしに (中略十行) そうすることで苦しさをのりきり、頑張りとおせたのです。 岩見沢で民青の地区と――、	泣きながら仲間に手紙を書いたこともありました。 思想的にまだまだ未熟だったわたしに (中略十行) そうすることで苦しさをのりきり、頑張りとおせたのです。 岩見沢で民青の地区と――、
最後まで	P 55 2 行	P 54 17行～18行	P 54 14行 15行
これこそ島流しです。 わたしはふたたび配転に反対して聞いています	職場の中でわたしの影響がつよまるのを恐れた会社は、四十年七月末、ふたたび――、	任務におしつぶされそうな気持で夢中でやってきました。また職場でも――、	泣きながら仲間に手紙を書いたこともありました。 岩見沢で民青の地区と――、

(中略五十二行)

どんな困難でものりこえていく不屈の解放の戦士となるため
これからも頑張ります。

仲間と心をひとつにして

三洋電気は地裁判決を不服として

(中略十四行)

わたしたちも仲間と心をひとつにしてさまざまな職場の要求
と結び合わせて、たたかっています。

別表(一)二

2行～19行	P117 上段7 ～8行	氏名	班名	題名	盗用無断転載の原文(傍線の部分を削除している) 許せない不当解雇 ——松下電工の民青攻撃とたたかう——
こうしてはなれた矢のように労音へ、うたごえへと走りまわるようになったのです。 あるとき、会社から佐野博という (中略六行) それを機会に民青への加盟にふみきました。 思想転向する気はないか		橋本邦久			
5行～8行	P56 9行			題名	「民青の告白」(傍線部分を加筆している) 両親に懇願されて 涙にくれる
こうしてはなれた矢のように労音へ、うたごえと走りまわるようになったのです。 そして、ついに民青に加入するに至りました。 その頃職場に「音楽がききたい」と――		橋本邦久	大阪・M電工班		

P 118 上段23行～中段23行	P 118 上段 7 行～18行		P 117 中段
「君は共産主義者のようだが、思想転向する気はないか」と一連の思想攻撃をうけました。「不当な思想侵害だ」こううけとめたわたしは (中略一二行) しかし、やはりはじめてのたたかいに緊張の連続で、職場にいてもろくに仕事も手につかず、職制のよびだしがありはしないかとビクビクしていました。 義理人情にせめられて このころから会社は私の留守をねらって自宅を訪問し、なに	会全体でたたかうにいたりませんでした。 おなじころ――、 (中略三行) 会社は「君は共産主義者のようだが、思想転向する気はないか」と一連の思想攻撃をうけました。「不当な思想侵害だ」こううけとめたわたしは (中略一二行) しかし、やはりはじめてのたたかいに緊張の連続で、職場にいてもろくに仕事も手につかず、職制のよびだしがありはしないかとビクビクしていました。 義理人情にせめられて このころから会社は私の留守をねらって自宅を訪問し、なに	――という要求がおこり、会社もこれを無視できずに、ステレオを購入しました。 ところがある日、会社は「楽友会てなんやそんなもん認めてへんぞ」といいだして会員ひとりのこらず過酷な追求をかけてきました。はじめは「やめる必要はない」と意志統一していた会員もたびかさなる攻撃に動揺し、ついに解散におこまれました。会社のいれ知恵のための攻撃は (中略三行) 会全体でたたかうにいたりませんでした。 おなじころ――、	そのころの職場は、長時残業が (中略五行) クタクタになったからだをいまいましそくに家へ運ぶ毎日でした。 そんな職場に「音楽がききたい」と――、
P 57 18行～P 58 4 行	P 57 13行～15行	P 57 8 行～9 行	P 57
「君は共産主義者のようだが思想転向する気はないか」といわれました。緊張の連続で、職場にいてもろくに仕事も手につかず、職制のよびだしがありはしないかとビクビクしていました。 このころ、会社はわたしの自宅を訪問し、「今となつては会社をやめてもらうか、	おなじころ――、 ところがある日会社は「楽友会てなんやそんなもん認めてへんぞ」といいだして、ついに解散におこまれました。 おなじころ――、	――という要求がおこり、会社もステレオを購入しました。	

	P 119 上段23～中段12行	P 119上段 1 行～ 9 行	
心配して電話をかけてきたなかに居留守を使つたこともありましたが、会社からたびたび電話がかかりました。 (中略二二行)	こんなかたちであられた階級闘争のきびしさつらさにとめどなく涙が流れてきました。 挫折感にさいなまれた日々 スパイを強要する会社 わたしが折れると見ると会社はかえつて高飛車になり、平然と処分をつきつけてきました。 (中略三行) 日付け白紙の退職願をだせとつけこみ、さらに自宅待機を命じてきました。 わたしはこれらの処分を腹わたしにえくりかえる思いで受けました。	——と案ずるばかりで夜ごとわたしに活動から手をひいてくれと泣きついてきました。これでもラチがあかないと見た会社は、こんどは、松下電器で主任をしている義理の兄をよびだして、あくどい攻撃で泣く泣く落ちいつたなかまの声をテープレコーダーできかせたり、わたしがそのなかまにだした手紙をみせたりして説得するようにせまりました。	も知らない両親にまるでわたしが会社で重大な罪を犯したものであるかのようにいつては「今となつては会社をやめてもらうか、思想を改めなければダメです」と強要しました。
	P 58 14行～17行	P 58 5 行～ 7 行	
心配して電話をかけてきたなかに居留守を使つたこともありましたが、待機後一二日目になつて会社は、「きみに九州営業所へ転動してもらふことになつた。あ	こんなかたちであられた階級闘争のきびしさつらさにとめどなく涙が流れてきました。 わたしが折れると、会社は自宅待機を命じてきました。 自宅中待機のわたしは――、	——と案ずるばかりで夜ごとわたしに活動から手をひいてくれと泣きついてきました。またM電器で主任をしている義理の兄をよびだして、説得するようにいいました。	思想を改めなければダメです」といいました。

	P 120下段 3 行～P 121下段21行最後	P 119中段23行～P 120下段 1 行
九州に出勤せず一四日以上無断欠勤したという理由で懲戒解雇の辞令をつきつけられました。	資本家とはどんなものを骨のずいまで思いしらされました。 九州配転をけつてたたいへ 待機後一二目になつて会社は、「きみに九州営業所へ転勤してもらふことになつた。あさつて出発するように」といつてきました。びつくりしたわたしはそれでは約束がちがうと抗議すると (中略三六行) わたしは、何ヶ月ぶりに胸のすみずみに、青空がバツとひろがるのを感じました。 首切り——でももう動揺しない つぎの日職場に出たわたしは、この転勤は納得できないとして拒否しました。 あわてた会社は幹部みずからのりだして (中略五行) 勝利へのかすかな展望をつかむことができたからです。 わたしは、この不当な転勤の真相を話そうとして、職場のなかまに近づくところを顔をもむけて去つてゆくばかりで、わたしにあいさつも返してくれなくなりました。 ともすれば、これらのなかまにたいするにくしみに走りかけるわたしでしたが、ここで敵を見失つてはならないのだ。これからもつらいのだと思ひかえすことができました。 仕事もまづたく与えられず——	さつて出発するように」といつてきました。 つぎの日職場に出たわたしは、転勤は納得できないと拒否しました。転勤の真相を話そうとして、職場のなかまに近づくところを顔をもむけて去つてゆくばかりで、わたしにあいさつも返してくれなくなりました。仕事もまづたく与えられず——、
	P 59 10行～13行最後	P 59 4 行～10行
九州に出勤せず一四日以上無断欠勤したという理由で懲戒解雇の辞令をつきつけ		

残念ながら、わたしの組合は、わたしの転勤を「正當なもの」とし、それをわたしが拒否したということで「関知しない」という態度をとりました。

わたしは、ただちに真相をビラにまとめて

(中略一六行)

暗黒政治がおとすれることになることもはつきりつかめるようになりました。

守る会のなかまにささえられ

わたしに対する地域のなかまの支援は、守る会結成へと発展し、

(中略二〇行)

たえず監視をおくという事実上「軟禁」状態にしています。

国会でもとりあげられる

この一連の思想圧迫と、人権侵害を重視した共産党の衆議員、松本善明代議士は現地調査のため

(中略三六行)

わたしは、原職への完全復帰をめざして、本裁判をたたかいぬきます。

全国の働くなかまのみなさん

ともにたたかきましょう。

ました。組合は、わたしの転勤を「正當なもの」とし、それをわたしが拒否したということで関知しないという態度をとりました。しかし、民青の仲間や、上部機関である地区委員たちは、わたしに、たたかわなければいけないと、いつてきているのです。

別表(一)三

題名	盗用無断転載の原文（傍線の部分を削除している） 団結のとうとさを知る 中小企業の労組づくりで首切り
題名	「民青の告白」（傍線の部分を加筆している） ミシン組立会社を 誹首されて

氏名	班名	氏名	班名	氏名	班名
松本吉雄くん(17)	埼玉	松本吉雄	埼玉 与野合同班	松本吉雄	埼玉 与野合同班
一人まえに扱ってくれ！ ぼくは三年まえ、中学をおわつてすぐ――、 労組づくりの準備をすすめました。 労組結成準備バレー首切りだが、いちばん古い経験をもった ――と叱るだけです。 ぼくは二日間父と話しい、職場のこと、賃金のこと (中略一一行) ――といつてくれました。父をつれて中小労連へいき、指導をたのみました。 ――などの要求をかかげてうつたえてきました。 これらの要求は、ほとんどとりあげられあるときには専務が便所の掃除をするときもありました。いま職場は冬場を前にして年末一時金(いままでだと七く八千円くらい)冬のしごとなど問題は山積しています。 昼間はアルバイトをやり、夜学に通っています。 ピラをうけとる仲間たちは「よウががんばれよ」と声をかけてくれます。 たたかうよろこびをつかんで ぼくたちはすでに――	P89 7行～9行	P88 1行	P89 16行～17行	P90 8行～9行	P90 5行～6行
ぼくは三年まえ、中学をおわつてすぐ――、 労組づくりの準備をすすめました。 労組結成準備バレー首切りだが、いちばん古い経験をもった ――と叱るだけです。 ぼくは二日間父と話しい、職場のこと、賃金のこと (中略一一行) ――といつてくれました。父をつれて中小労連へいき、指導をたのみました。 ――などの要求をかかげてうつたえてきました。 これらの要求は、ほとんどとりあげられあるときには専務が便所の掃除をするときもありました。いま職場は冬場を前にして年末一時金(いままでだと七く八千円くらい)冬のしごとなど問題は山積しています。 昼間はアルバイトをやり、夜学に通っています。 ピラをうけとる仲間たちは「よウががんばれよ」と声をかけてくれます。 たたかうよろこびをつかんで ぼくたちはすでに――	――と叱るだけです。 ぼくは中小労連へいき、指導をたのみました。	ぼくは三年まえ、中学をおわつてすぐ――、 労組づくりの準備をすすめました。だが、いちばん古い経験をもった――、	――などの要求をかかげてうつたえてきました。 いま職場では冬場を前にして年末一時金冬のしごとなど問題は山積しています。 昼間はアルバイトをやり、夜学に通っています。 ぼくたちは、すでに――、		

その第一は、労働者は団結しなければならぬこととなう まそんなことをいつても会社は――、	P90 13行	その第一は労働者は団結しなければならぬこと となことをいつても会社は――、
――という大原則です。 よく準備して仲間と話し合 第二は、では労働組合を――、	P91 5行～6行	――という大原則です。 第二は、では労働組合とは――、
――必要があることをおしえています。 ばくは民青同盟の一員として (中略三行)	P91 10行	――必要があることをおしえています。
祖国と青年の解放をめざして奮闘する決意です。		

	盗用無断転載の原文（傍線の部分を削除している）	
題名	要求をがつちりつかんで 店員さんを組織した経験から	
班名	民青新聞福岡支局	
氏名	石井正浩	
	T居住班は、さる二月五日にうまれた―― (一)	
P95 8行～10行	「――加盟する決意をしました」とかたつています。 (二) 班ではこれまでの活動の――	
	「民青の告白」（傍線の部分を加筆）	
題名	商店員を狙いスケート大会	
班名	福岡T居住班	
氏名	石井正浩	
P93 1行	T居住班は、さる二月五日にうまれた――	
P95 8行～10行	「――加盟する決意をしました」とかたつています。 班ではこれまでの活動の――	

	——はりきつて活動しています。 (三) このようにT居住班は——、	
民青新聞で青年と結びつく方針をもっています。 いま同盟活動のうえでさまざまな困難がありますが、T居住班のようになされた活動から深く学び、多くの班にひろげていくことは十大会にむけてわたしたちがかちとらなければならない課題だと思っています。		
	P 98 1 行～2 行	
民青新聞で青年と結びつく方針をもっています。	——はりきつて活動しています。このようにT居住班は——、	

別表(一)五

	盗用無断転載の原文(傍線の部分を削除している)		「民青の告白」(傍線の部分を加筆)
題名	「共産主義読本」の学習 運動を大々的に起そう	題名	「共産主義読本」の学習を広げよ
班名	(同盟中央委員会教育部員)	班名	日本民主青年同盟中央委員
氏名	西村 功	氏名	西村 功
	「共産主義読本」が發刊され (一) ——マルクス・レーニン主義にみちびいてくれる役割をもつ ています。 (二) この「共産主義読本」は——、	P138 1行	「共産主義読本」が發刊され ——マルクス・レーニン主義にみちびい てくれる役割をもつています。 この「共産主義読本」は——、
	この「共産主義読本」は——、	P139 5行～6行	

	題名	班名	氏名	P 93 下段 23行～ P 94 下段 4 行
盗用無断転載の原文（傍線の部分を削除している）	神奈川県同盟の 教育学習活動		木 原 徹	わたしたちの機関はこの関係をしっかりとつかみ指導の強化 をしていかなければならないと思います。 「青年のモラルについて」の班学習を （中略五十四） 行動と教育の機態を存分に発揮し、輝ける十大会を成功させ ましょう。
「民青の告白」（傍線の部分を加筆）	民青県委員会での 幹部教育	民青神奈川県委員	木 原 徹	P 152 1 行～2 行 わたしたちの機関はこの関係をしっかりとつかみ指導の強化をしていかなければ ならないと思います。